

令和4年度 県立こやの里特別支援学校 学校評価(自己評価)について

1 学校評価(自己評価)の分析と考察

(1) 各学部の取り組みについて

教員については、どの学部も前向きにそれぞれの目標・課題に取り組んできたと捉えられる。一部「あまりできなかった」という評価があるが、成果と課題にあるように、「もっと児童生徒にとって有意義な活動を行いたい」という思いや、「もっと高い目標や成果を狙っていた」と取れる。保護者の回答からみて、全体としては概ね達成できたと判断できる。

保護者については、子どもの成長に関心を持ち客観的に評価をしていただいていると思われる。各学部の設定目標も理解をしていただいていると感じる。取り組み効果についての評価もかなりよい評価をつけていただき、連絡帳や懇談等で双方向にコミュニケーションが取れ、日頃の取り組みを知っていただいているのだと思われる。取り組み効果についての「あまりそう思わない」「そう思わない」は大きいところで20%ほどあるが、学校評価という形で行う場合は、どうしても限られた項目での回答となり、一定の割合で出てくるものだと考えられる。ただし、安易に考えず、いかに一人一人のニーズに沿った学習展開ができるかを探る必要がある。また、「成果と今後の課題」に、周知徹底の弱さをあげているところがあり、情報発信や共有が十分でない事も考えられる。引き続き、ホームページやブログ、通信を通じて、学校や学部、学年の大きな取り組みについて知っていただけるよう、また連絡帳を通じて、日頃の取り組みから感じる変化や成長、喜び等を保護者と共有できるよう、丁寧な情報発信、コミュニケーションを継続していきたい。

(2) 各分掌の取り組みについて

昨年度の課題を踏まえ、継続・発展させる事を念頭にどの部も取り組んできた。

支援部において、昨年度は「トライアングルプロジェクト」を進めるにあたって、特に放課後等デイサービスとの連携が課題となり、連絡帳の共有について進められた。保護者への周知と具体的に連絡帳の共有の希望を確認して動き出した事で、家庭・学校・福祉の連携の必要性の理解も深まったと思われる。三者連携会議が増えてきていると報告を受けている。時間をかけて取り組みを続け、成果が上がっている事が周知されていく事でより推進力が高まると思われる。

教務部では、新しく導入される校務支援システムについて、円滑に進めるための取り組みと教育課程の見直しを重点とし、保護者向けにアンケートを実施していない。教員においては9割以上が「できた」としており、概ね順調に進められた。教育課程の見直しについては、様々な意見がある中で、時間をかけて協議を進めてきた結果である。

総務部は引き続きホームページの充実に向けて取り組んだ。昨年度に大きく形を変えているので、その形の中でどの様にしていくかを考えて進めた。保護者からは「ホームページのわかりやすさ」、「ブログ更新」について「あまりそう思わない」という回答が20%弱あるが、レイアウトは決まっているので、ブログ更新の周知や見てもらう回数を増やし、慣れてもらう事で変わってくると思われる。

進路指導部については、具体的に相談しながら関わるのは高等部からである。進路通信は全年対象に配布し、小・中学部の保護者にも見てもらう事を考慮して作成しているのだが、通信については「知らない、わからない」の回答が多かった。小学部から進路について情報を知りたい

という声も聞く一方でまだ必要ないと思い、あまり読まれていない家庭があるのかもしれない。しかし、キャリア形成という大きな枠組みで捉えて発信もしているので、保護者にどの様にアピールするのか模索しながら継続して行きたい。

重点目標としてあげている、保護者・担任・進路指導部の連携について、保護者の評価では8割ほどが「そう思う、どちらかといえばそう思う」としているが、一部に「あまりそう思わない」の回答がある。真摯に受け止め、一人でも多くの生徒・保護者が納得して進路の取り組みができるよう、丁寧に取り組んでいく事が必要となる。また、卒業後のアフターケアについては、関係機関を中心として、学校側も連携を取りながら関わっており、卒業後の進路選択と生活とを合わせて、在学時から支援部・福祉とも連携を図っているところである。継続して進めていく必要がある。

生徒指導部の保護者の回答にばらつきがある。コロナ禍で活動が制限されたり小集団に分けての活動であったりした事で、わかりにくかったり、連絡帳ではそこまでの共有もれにくいとも考えられ、保護者へ活動が伝わっていないのだと考えられる。部としての発信を今後も積極的に行う必要があると思われる。

保健部については、いち早く「こやのさとスタイル」として新型コロナウイルス感染症対策等のマニュアルを作成し、周知徹底を行ってきた。学校生活のなかでしっかりと定着している。

学校給食と保健だよりにより、食に対する関心を高める取り組みを行ったが、教員への働きかけと相まって、保護者へ意識付けがしっかりとできたと感じる。

研究部、自立活動部は特別支援学校において、核となる部分である。一人一人の教員が知識と技能を高め時代の流れに沿い、授業や生活場面での指導において、それぞれの生徒に合わせた指導ができるスキルをつけていかなければならない。保護者には概ね高い評価を得ていると思うが、怠る事なく実のある研究、研修を積み上げていきたい。

(3) 保護者アンケートの自由記述について

総数は29件。「個別に寄り添い、少しずつステップアップしてくださると感じています」「こやの里だよりや進路通信、保健だよりなどで、普段見えない先生方の取り組みが知れてよいと感じる」「先生がとても熱心で何かあってもすぐに対応してくれました。子どもも先生が大好きで毎日楽しく学校に通わせていただき、できることもたくさん増え、とてもありがたくなっています」

「先生方の子どもたちへの言葉かけや配慮、見習いたいと思います」「お忙しい中、いつも連絡帳へ子供の様子をたくさん書いて下さり、ありがとうございます。毎日の成果が分かり、こんなことが出来るようになったのかあと嬉しいです。家でもこうしてみようと参考になりますし、前向きになります」「家庭では中々出来ないアクティビティをやってもらえて助かります」「先生方は家族のように子どもたちの成長を願い一人一人に寄り添ってくださっていると感じます。日々感謝しています」など、温かいお礼・感謝の言葉を多数いただいた。ご意見等は学校評価としての内容に絞り次にまとめた。

① 学校ホームページについて

- ・HPはどこにどの情報があるのか分かりにくいと感じる。
- ・ホームページやブログなど、更新があったときはメールなどで知らせてもらえると見るき

っかけになるのではないか。

・ブログをまめに更新してほしい。

② 各種通信やたよりについて

・授業の様子だけでなく、完成した作品の写真などがあればもっと分かりやすいと思う。

③ 教育活動について

・今年は、参観がマラソン大会やバザーになっていた。オープンスクールも在校生の親は行けず普段の学校生活の様子が全く見えなかった。オープンスクールは親も行ける様にしてほしい。参観は普段の授業を見せてほしい。マラソン等の体力作りにもっと取り組んでほしい。

・学校を楽しんで行っている感じではない。心開ける、信頼おける先生にまだ出会えていないようだ。もっと個々に対話をしていってほしいと感じる。

・国、数学の授業がいつどのような内容で行われているのか分かりにくかった。

・休暇中の宿題について、子供のレベルにあわせた対応をご検討頂きたい。当方だけの個別の課題ですが、易しすぎてすぐに終わる。逆にレベルが高くて親の宿題となっている、というケースがある。

いただいたご意見等については全職員で共有し、改善すべき点は学校として取り組んでいく必要がある。

2 学校評議員助言

第2回学校評議員（令和5年3月2日開催）において学校評議員からいただいた助言は次の通り。

（1）課題と助言

- ① 高等部の教育課程の見直しについて、最近の流れの中でもっと教科に取り組まなくてはいけない風潮があるが、合わせた指導というのも知的障害教育の工夫の一つである。自立活動やキャリア教育などは総合的に取り組んでいくべきである。習熟度別のグループ、全体で行うことになった自立活動、教科としての理科や社会について、よく話し合いながら実施していく必要があると思われる。
- ② 分教室の交流及び共同学習について、良い交流ができていると感じるが、その姿をもっとわかりやすく子供たちの行動の変化を示すことが大事。それが隠れていてはもったいない。もっと発信すべきだと思う。
- ③ 分教室のインクルーシブ教育は学校内にとどまらず、地域社会に出ていき、つなげていくことも必要だと思う。
- ④ 学校評価で厳しい数字のところがあるが、広報不足と感じられる。伝えられていないのはもったいない。連絡帳については個人差が大きいと思われる。重要なコミュニケーションツールなので、うまく伝わっているかどうかを重点的に見直すような機会が必要だと思う。
- ⑤ 学校評価の回収率についてはもったいない。行政の方でもWEBのアンケートに変えたが、若い世代でも回収率が落ちる。何度も言うしかないのではないかな。
アンケートに協力したい気持ちになることが増えるとよいかなと思う。
- ⑥ 放課後等デイサービスを提供している事業所が増えているが、ルール化することで連携が取れる

ことが進んでいる、個別のケース会議なども、時間がなくても進めてもらえるといいと思う。

- ⑦ 令和6年度に新設校ができるが、子供が増える来年度をどうするかが心配。教室等が足りない、教員が子供たちと一緒に給食を食べられないなどと聞いているが、放置してはいけない。また、軽度の知的障害である小学部児童が増えている。なぜ増えているのか、適切な就学指導が行われているのか、地域の学校に行きにくくなっているのかなども考え、関係機関と協議する必要があるのではないか。
- ⑧ 自立活動を打ち出しているが、「自律」の方と一緒に考えることが必要と感じている。また、人間力を親とともに育んでいく「こやの里」を作ってほしい。
- ⑨ 不登校が増えているが、在宅ではいけないというのではない暮らし方が必要。どうすればこのような人たちが活躍できるかを模索できる学校が大事である。

(2) 感想等

- ① 全国有数の児童生徒数を抱える学校であるが、一丸となって取り組んでいる。努力に敬意を表する。
- ② 学校評価について、プラスの評価が多く出ている。素晴らしい。
- ③ いつもこんなに幅広い活動を学校で行っているのかと感じる。日々熱心に取り組んでいるのがよく分かった。ありがたい。
- ④ P T Aとして、先生方のサポートをしたり、先生と関わったりする環境を作れたらと思う。

3 令和5年度に向けて

学校評価（自己評価）結果及び学校評議員助言を学校全体で共有し、学校としての改善点を共通理解する。各学部学年及び分掌間でより効率よく効果的に改善に取り組めるよう令和5年度へ引き継ぐ。令和5年度に向けた取り組みポイントは以下の通り。

(1) 伝わり方を意識した情報発信

連絡帳やお便り等を介して、日ごろより児童生徒の活動や成長の様子を保護者と共有されているが、教員による個人差もある。重要なコミュニケーションツールの一つととらえ、クラス、学年で教員間での情報共有、チームでの対応をより重点的に行う。

ホームページ（ブログ）の内容について、見えにくい児童生徒の活動がわかるように学年、学部、各部の行事や取り組みなどバランスよく更新していく。

(2) 家庭・福祉・学校の連携の推進

個別の連携会議の依頼が増えてきており、引き続き保護者への周知を図り充実させていく。三者連携のより一層の推進を目指し、家庭や福祉との丁寧な情報共有を心がける。

卒業後の生活が学校から離れて福祉との連携がより強く必要となることを踏まえ、必要に応じて支援部と進路指導部の連携も充実していく。

(3) 学習指導要領改訂に合わせた教育課程の継続した検証

各学部の目標と教育課程に沿って、各教科と合わせた授業の内容が見通しをもって行われているか。児童生徒の現状に合っているかを教務部、研修部、自立活動部が連携しながら検討、改善をしていく。